

事業報告書（令和7年度）

事業名 手紡ぎの会ふわふわ

団体名 手紡ぎの会ふわふわ 担当者名 サチダナンド世志花

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

令和7年4月29日 講師；三好まゆ

羊毛刈り体験
参加者 10名
於；三好牧場



5月6日 藍の畑作業

5月28日藍の乾燥葉染め



6月24日 たつけズボンWS



7月23日花染めワークショップ



8月20日 羊毛染色講座 講師 三好まゆ

9月10日藍摘み、藍の生葉染め（午前）、手作り石鹼ワークショップ（午後）



10月31日から11月2日 岡山ウール展 岡山会場出展
11月2日 豊野公民館文化祭 手紡ぎの会ふわふわ出展
11月8~9日 岡山ウール展 吉備中央町会場出展



11月19日 くさぎ染め



12月20日 マリーゴールド染



なお、毎回の会合では、羊毛の手紡ぎを行っている。

2. ESDの視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

今年は季節の移り変わりに自然の恵みを色という形で触れ合ってきました。山や道端の草木や自然に心を配り、この世界の美しさと、自然の豊の恵みを日常に活かす感覚を養うことができました。参加者皆さんの感じた感性をシェアし合うことで良い分かち合いの交流もできました。

② どのように学び合いを取り入れたか

次回の予定にテーマを決めて、次の集まりまでそれぞれが予習をして、調べ合ったことを持ち寄り、一人一人が講師のような立場で発表をしあい制作活動に落とし込みました。地域で育てられた羊の毛を刈り取り、洗い、染毛をつむぎ、フェルト加工などを通じてマフラーや帽子、せっけんや生活用品を制作しました。地域資源を生かし日常的に使えるものを生み出すことで参加者が作る喜びと循環する暮らしを創出することができました。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

自然素材や地産地消の材料で制作したものを、日常的に使用するために、制作するのが目的の本会の活動です。また、そのような活動をそれぞれの SNS で発信したり、日々着用し多くの人へ手作りすることの無駄のなさ、モノを大切に作る心がけを伝えたりそれぞれが発信することで社会的な影響を与えることになってる。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

今年は三会場で展示会を行った。

岡山で羊を飼い、羊毛を利用して、敷物や、帽子、マフラーや衣服への制作

日用品など、工夫した作品展示場に多くの観覧者が訪れ、大きな関心と反響をいただいた。

羊毛という未利用資源を有効活用することで、廃棄物削減や地産地消の意識向上にも寄与しました。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

- 1, 若い人や都会に住む人が田舎の暮らしに関心が抱けるような参加の機会の拡大
- 2, 地域内での循環型コミュニティの仕組みづくり
- 3, ローカル循環型の暮らしのモデルづくり
- 4, 価値やストーリーを発信する

ことを通じて、多くの人に参加できる機会を増やし、手仕事文化の継承と地域の持続可能性に貢献していきます。